



やまゆり

学校だより

令和5年11月9日
57号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行するー
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標重点 「地域との連携・豊かな心の育成」

1年生が地域の方々と「花植活動」を行いました

11月10日(木)に中山地区(矢先)の花畑で、商工会議所の女性部の皆さんと一緒に1年生と学年職員(組谷・鈴木)で花植え活動を行いました。今年度2回目の活動で、生徒は要領を覚え主体的に活動しました。また、地域の方々とも協力して短時間できれいな花畑を創りました。

最後に女性部の皆さんから、ポインセチアの鉢植えとお茶をお礼に頂きました。環境美化を通して故郷を愛する心を育み、地域貢献のために連携する活動を今後も大切にしたいと思います。

活動終了後の写真撮影



はじめの会の様子



生徒主体で会を運営しました



活動のために「耕し、マルチを引き、花を用意」して準備して下さいました 一生懸命な活動



要領を覚え、ひたむきに花植活動をする生徒



花を植えたら、マルチを押さえる



全員でマルチ押さえの活動



通路に防草シートを引く



ピンや釘でシートを固定



完成した花畑！



終わりの会の様子



ポインセチアを頂きました



○ 真面目に努力できる良さを大事にし、意味や価値に気づき協働する力を向上させましょう。

学校教育目標重点 「確かな学力の育成」・「連携」

静岡県吉田町の「^{じきょう}自彊小学校」を視察して学びました

11月8日(水)に静岡県の吉田町にある「自彊小学校」を南都留郡の校長会で視察し、「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」によって、「**主体的に学習する力を育成する**」実践から多くのことを学びました。吉田町教育委員会では、町内の3小学校と1つの中学校の4校を同時に、「**文部科学省のDXスクール事業(ICTの推進校)**」として昨年度から研究を推進しています。**この事業名は、道志小中が山梨県から受けている「令和のやまなし教育活動モデル事業」とほぼ同じ内容**です。本校でも公開研究会をしたばかりなので、自校の実践と比較しながら学ぶことが出来ました。当日は、南都留の校長会の他に、長野県の義務教育学校の方々と、デジタル庁の教育班の担当者2名も参加していました。

^{じきょう}自彊(自ら努め励む意味)小学校からの学び

- 1 **公立小学校で文部科学省の指定校に申請し、個別最適・協働的な学びによる主体的な学習者の育成に果敢に挑戦し、公開授業・研究会を積極的にしている。**
- 2 教育委員会を中心に4つの小中学校が同時に研究を推進し、**毎年各校の全授業公開をしながら、4校の教職員全員で研究を推進**している。
- 3 一人一台端末を約2,200人の児童生徒全員に貸与し、家庭への持ち帰りも自由にして**いる。約10万円のタブレットも消耗品**として考え、故障に備え予備まで用意している。
- 4 一人一人の学力保障を考え、「**児童生徒が主体となって学ぶ指導**」の**転換**を図っている。※いかに教えるかではなく、児童がいかに学ぶかを推進する指導
- 5 **全学級の学習指導を公開し、学びの方法を選択**する姿を実践で提示している。
- 6 一年中学習指導を公開し、県外からの視察も受け入れている。その中で、**多様な方々の意見交換で積極的に学びを推進**している。
- 7 **教職員の協働体制**。校長先生の方針の下、研究主任さんを中心に教職員が協働して研究・実践を推進している。

教育公務員として、自らの指導を更新し続け、児童と共に学び続ける教職員の崇高さを強く感じました。研究の途中であり、実践には課題もありますが、「協働して挑戦し続ける」体制に刺激を受けました。今後の本校の実践に生かしたいと思います。

文部科学省指定校の「自彊小学校研究校の実践」から気づいた道志中の実践の成果

1 学びの基盤となる「安定し活性化した学級づくり」の実現

本校では、WEBQUを活用して学びの基盤となる学級を3クラスとも差が無く、最上の認知状態にすることができている。「安定と活性度の高い学級づくり」は難しく、事例が示されていない。現在実践して公開しているのは全国でも道志中のみである。個人と学級の実態に応じた指導を徹底している点にも本校の特徴がある。

2 単元目標の明確な設定(学習指導要領の指導事項)と生徒との共有

学習の目的は、学習指導要領の指導事項の達成であり、「個別・協働・対話・深い学び」等は手段である。「主体的に学ぶ生徒の育成」は、評価の対象である。主体性の評価は①知識・技能、②思考力・判断力・表現力の観点別評価を基準に評価をする。この点において、学習指導のねらいと言語活動、評価にズレがなく、生徒からも分かりやすい特徴を持っているのが本校の指導である。

3 個別最適な学び

学習目標の明確な提示と、興味や関心が高い(例:一番好き)課題を設定し、自分で学び方を選択し、自己決定して学習を推進する。この学習の際、各自が自分の考えを根拠をもとに形成し、友人との協働学習の目的や相手を適切に選択する工夫をしている。文部科学省の考え方を反映した学びに、本校独自の「キャリア形成」の観点を意識させているところに大きな特徴があり、義務教育課からも評価されている。

4 協働的な学び

めあての達成のための協働学習と、目的意識・相手意識の明確さが第一の特徴である。そして、異学年交流も実践している点も大きな特徴。公開発表会のように、全校での国語の学習の交流は、他校では実践していない。多様な他者を尊重し、異なる意見を追及しながら学習目標を達成し、言語活動を通して人間関係の充実も図っている。

5 効果測定(研究の成果の確認)

学級の安定と活性化、学習面での1年間の成果をWEBQUとNRTという標準化検査で効果測定している。また、主体的に学習に取り組む態度も、「知識・技能」・「思考・判断・表現」の2観点を基準に評価している。

自彊小学校 海拔15km

全校生徒425人

みんなと同じ方向を向いて行う研修



校長・教頭・教務主任の挨拶



学びの方法を自分で選択



個人・グループ学習の学び方



